

「聞き書き」の意味

共存の森ネットワーク

澁澤 寿一

聞き書き甲子園の取組み

毎年100人の高校生が、
森や川、海とともに生きてきた
100人の名人と出会い、
知恵や技、生き方、価値観を
「聞き書き」し、
記録する活動。(2002年～20年目)



時代の転換点

70代以上

戦中・戦前生まれ

数万年続いた

60代～40代

高度経済成長期
～バブル期

1960(S35)～1965(S40)

10代後半から20代

バブル以降

60年の実績

農村中心(生きる=働く)

自給自足

薪や炭

体を使って働く

歩く・馬や牛

伝統的な知恵や技

自然の厳しさ、豊かさ



都会中心(お金の社会)

冷凍食品・レトルト

石油・ガス・原子力

電化製品・パソコン

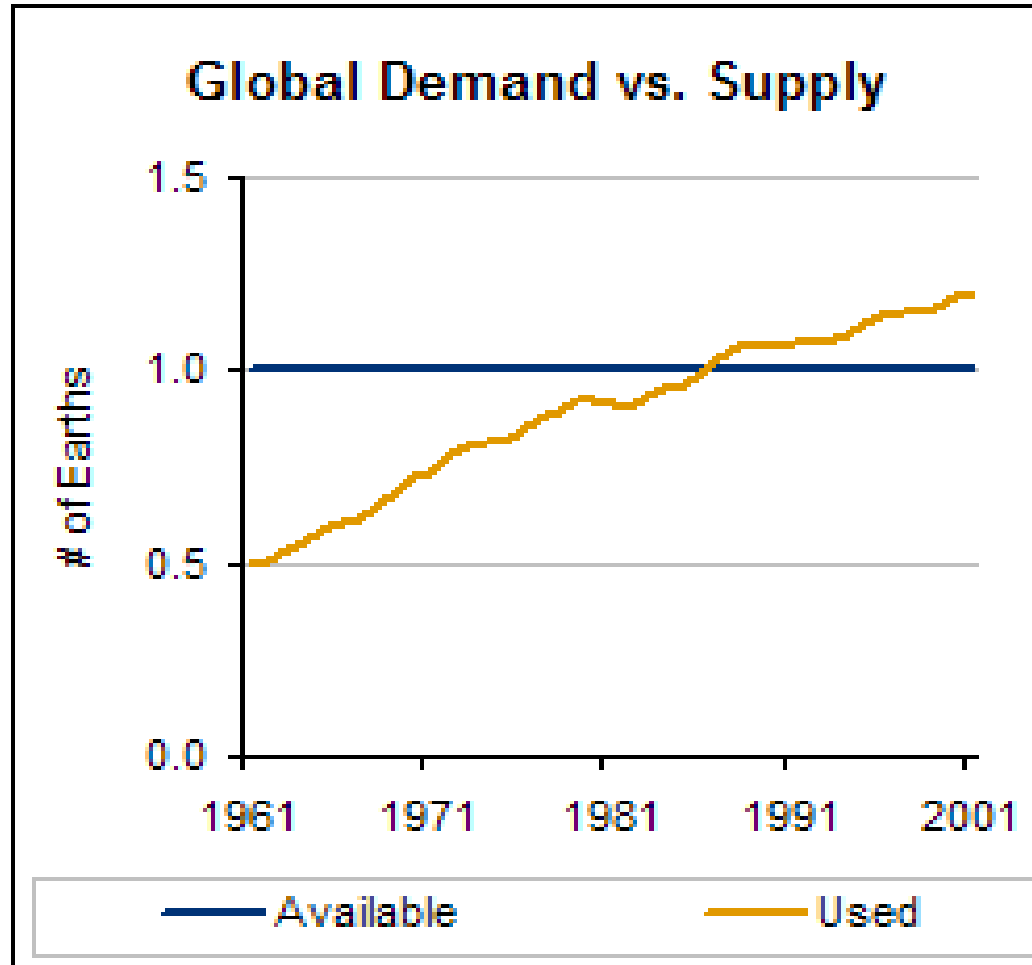
自動車・新幹線

情報化社会

公害問題・地球温暖化

エコロジカル・フットプリント

—地球の足形(自然の成長量をどれだけ人間が使っているか)—



76億の人間が、
日本人と同じ暮らしをすると、
地球が、**3**個必要。

持続可能ではない、

「現在の普通の暮らし」

日本は先進国なのか!?

私たちの知る、唯一つの「**持続可能な社会**」

それは、「**先祖**」から続く、今の「**あなた**」

教育は「皆」でやるもの

- ・社会教育 (身体で) ... そのこの風土の中で持続的に生きる。
知恵と考え方の伝承。(文化の伝承)
- ・学校教育 (頭で) ... 何処の世界でも使える普遍的知識。
知識と課題の抽出・解決の手法を
教える。(文明への対応)
- ・家庭教育 (心で) ... 躰、人と人の基本的コミュニケーションの
決まりごとを刷り込む。
非認知的能力。(体験、愛・赦し・慈しみ)

教育は本来、「生きるための伝承」

何を伝えるべきか

「どのような未来が、幸せな社会か」

どう生きるか、を教えなくなった日本。

聞き書きは、「どう生きてきたかの追体験」

そして、自分と地域の未来を考える。

司馬遼太郎さんの懸念

- 私たちの使う日本語は、いつできたのか？
- 日本語の普及以前の、コミュニケーションはどのようなものか？
- 人間の脳の進化（肉体の感覚 と 脳の知覚 の循環）
五感 と 言語化・非言語化

- ・ 言語とは何かを考える、アイヌ語と日本語

「大漁」という言葉・・・鮭がたくさん獲れた！

ア・エラ・ウナ・ルラ (私・それを・隣に・運ぶ)

「喜びの意味」

分配できる魚の増加 = アイヌ

所有できる魚の増加 = 和 人

「寄り合い・祭り」と「会議・イベント」の違いは？

寄り合い・・・**非認知能力**で、暗黙知を共有し、**共感**し、先祖（神）の前で

(祭り) 世間の合意形成を図る。

(世間)は、**人**と自然、祖霊と子孫で形成

会議・・・..**言葉**をつかい、民主主義というルールで、

(イベント) **社会**の合意形成を図る。

(社会)は、生きている**人**と**人**で形成

寄り合い・祭り

行 動

思 考

認 識・言 語

(もののあはれ・身体性)

暗黙知・非認知能力

(歌、詩、恋)

体 験・農・漁・猟

自 然・宇 宙・先 祖・靈・神

会議・民主主義

・イベント・既存の教育

行動

思考

認識・言語

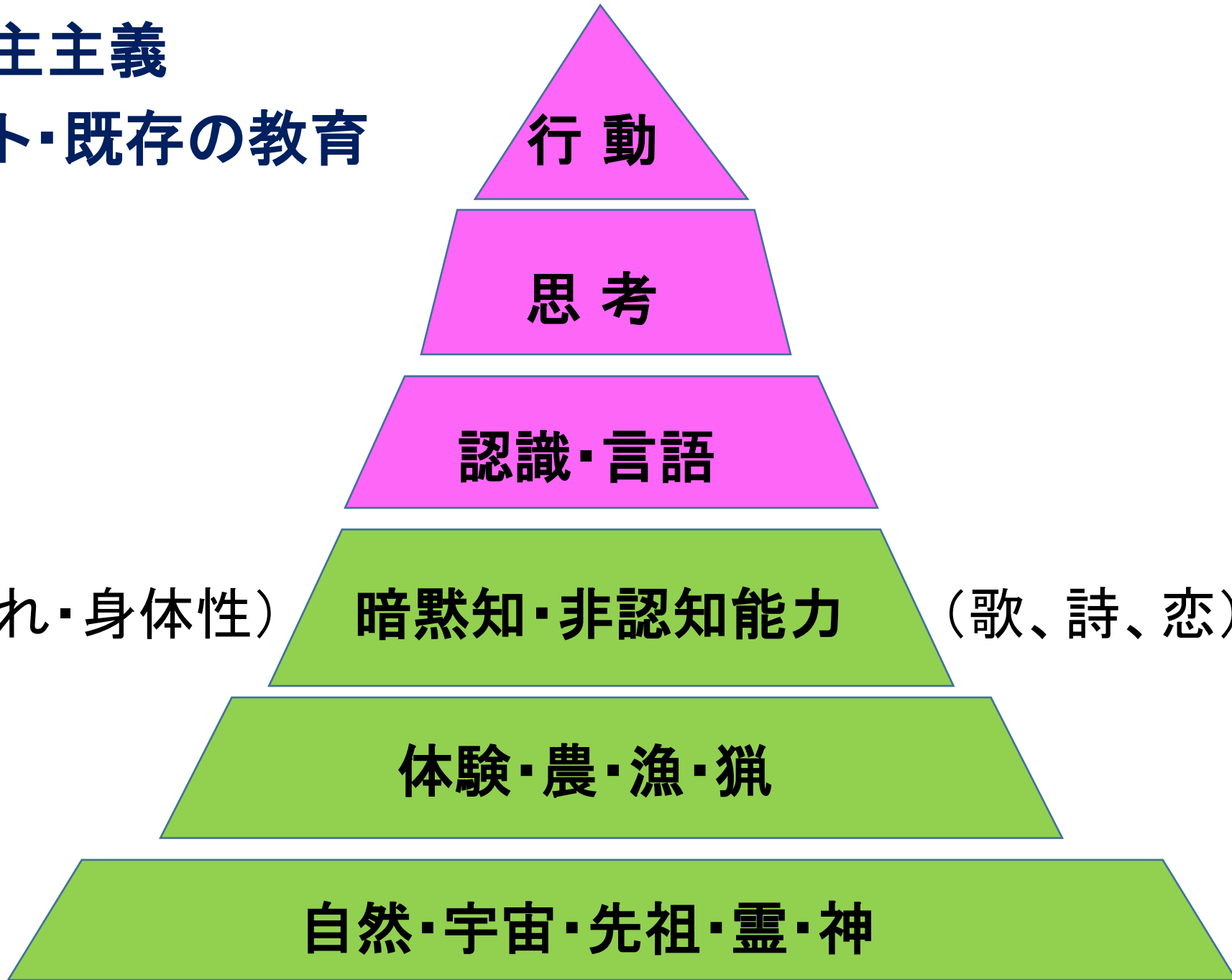
暗黙知・非認知能力

(歌、詩、恋)

体験・農・漁・猟

自然・宇宙・先祖・霊・神

(もののあはれ・身体性)



聞き書き

行動

思考

認識・言語

暗黙知・非認知能力

体験・農・漁・猟

自然・宇宙・先祖・霊・神

(もののあはれ・身体性)

(歌、詩、恋)

文字で理解し、頭で考えるか、
五感で受け止め、身体で考えるか

知識(文字、図形、画像...)の伝達が教育か
身体性(非認知的領域)の教育はどのように

村の暮らし 「ありがたさ・温かさ・煩わしさ」

- ・ 人間の**信頼**
- ・ 助け合い、お互いさま、**絆(きずな)**
- ・ 住人は家族の延長
- ・ 強固なコミュニティー(いわば、同業者の集まり)
- ・ 自然と一体な暮らし(命の臍の緒は**自然・地域**に)
- ・ プライバシーより**共同体**

↓
煩わしいが、**温かい**社会

都会の暮らし 「快適さ・冷たさ・無関心」

- **個人**の世界（勝ち組、負け組）
- 行政サービスの完備（お金を払えば）
- **システム**への過度の信頼
- 隣の住人の顔も知らない
- 自然と暮らしは別の物（命の臍の緒は**お金**に）
- **プライバシー**の尊重



便利だが、**冷たい**社会（**無縁社会**）

感覚と知覚の循環を切った「無縁社会」

• 人と人の関係性

家族間、友人間、組織内、地域内。「**今だけ・お金だけ・自分だけ**」

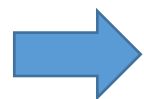
「孤立社会」、「LINE社会（貧情報社会）」

• 人と自然の関係性

生産と消費の分離、自然を知らない消費者

• 世代を超えた関係性

これから生まれる世代に対する配慮の無さ、無関心



持続可能社会の崩壊（経済性、効率性のみが優先）

無縁社会の本質

「無縁社会」 = 関係性の遮断 = 「今だけ・お金だけ・自分だけ」

「無関心」「無視」「面倒くさい」

これは愛の枯渇した状態

「愛」の反対は、憎しみではなく「無関心」

(マザー・テレサ)

地域の**自然**、**祖霊**、**神々**には「無関心」

他人を「無視」、他世代は「面倒」

「**愛**」のきっかけは「**興味を持つ**」こと！

持続可能な社会をつくるには、**感覚**と**知覚**を循環させる。

人と**人**、**人**と**自然**、**世代**と**世代**が、つながること

→ つながるには、お互いが**関心**と**共感**を持ち合う社会

(**関係性づくり**→**幸せな社会**)

「つながる」きっかけとしての聞き書き

「聞き書き」は、一人語りの文章

話し手と聞き手の対話から、聞き手の問いをはずし、

話し手の会話を、並び替え、削り、編集する。

話し手の「語り口調」を生かしながら、文章をまとめる。

文章を読むと、その人の個性が浮かびあがってくる。

「聞き書き」とは

歴史は一人一人の人間によって、作りあげられている。

その人の**思い**、**感情**、**願い**、**希望**、**関心**、**共感**、
そのすべてで、人は、歴史を**つないで**いる。

風景も、暮らしも、人によって形づくられる。

ディテールを大切にしながら、その人の**心**を伝える。

取材 と 聞き書き

- 自己紹介・・・**話し手**が、自分の人生や生業を、
話し手の考えや言葉でまとめ、**聞き手**に紹介する。
- 取材・・・ **話し手**の人生や生業を、**聞き手**が**自分**の考え、
自分の言葉でまとめ、**読者**に紹介する。
- 聞き書き・・・ **話し手**の人生や生業を、**聞き手**が聞きだし、
話し手の言葉だけでまとめ、**読者**に紹介する。

いのちの連続の向こうに、未来の自分を考える

自叙伝を残すのは、限られた人。

偉人伝が残るのも、限られた人。

普通の庶民の暮らしの中に、実は大切なものがある。

ひとりひとりの命の重さ、生きることの豊かさ。

自分の人生を重ねて、**未来の社会・未来の自分**を探る。

環境や風土を感じる

話を聞くのは、できれば、その人の仕事場や家で。

その人が生きてきた情景を思い浮かべる。

坂道の勾配、土の匂い、
水の冷たさ、家の佇まい……

少しでもその人のことを
知ろうとする。

聞き書きは恋愛に似てる。



「話し手」に対する敬意と共感(重なる自分)

＜参加高校生の感想文から＞

「話してくださることを、

目、耳、心できちんと聞くということが大切だと思いました。」



「名人が言いたいことが、
いつのまにか自分の言いたいこと
になっていた。」

「心で見なければ、物事は見えない。

大切なことは、目に見えない。」

「星の王子様」

サン・ティグジュペリ

